



蝶わたる海

清水 正子

(神奈川県)

このごろの私
長い巣籠もりで人生三度目の帯状疱疹になってしまった。痛痒い胸のぶつぶつに呪文を吹きながら薬を塗っていたがもう大丈夫。あとはコロナ以前の日常に戻るのを待つばかりです

藤袴咲く庭にゐしアサギマダラ写メで飛びきぬ思ひ出連れて

紺瑠璃の波のうへ飛ぶ蝶を見つ漁船かへりくる氷見港の昼

偶然かはた必然か海わたる蝶に会ひしはまぼろしならず

たをたとアサギマダラは翔けゆけど列島縦断の旅のつはもの

能登半島よこぎる蝶の道あらむ羽昨へわれは逆コースゆく

気多大社「入らずの森」のひそけさに渡りの蝶の仮眠おもへり

折口信夫父子の墓所より見ゆる海けふ風ぎて蝶の渡り日和ぞ

帆のごとく翹たてて波に憩ふ蝶あはれ見えねどこの海にゐむ

遣伝子にプログラムされし旅を生く羽化後五ヶ月の命の限り

身を守る毒と擬態を使ひわけ一〇〇〇キロ旅すアサギマダラは

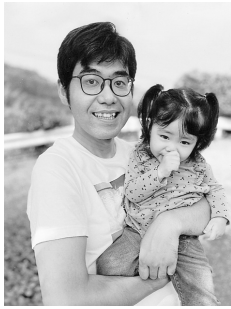
寧日のなき連歌師の旅に似む春は北を指し秋は南下す

殿方に夜のオーレリアン多けれどアサギマダラ追ふ船旅いかが

船旅のデッキ散歩で会へるかも然ながら船首飾りの蝶に

神さまの加点もあらむ海わたる蝶とわれとの出会いの数式

この秋も君は藤袴咲かせぬむアサギマダラの訪れ待ちて



う ん

梅田 陽介
(熊本)

このごろの私
三十歳の私。過労で体を壊し失業、実家に戻り半寝たきり。人生終わったような気持ち。四十歳の今。結婚、娘の誕生、妻の実家を建て直し義父母と五人での生活。十年で人生はこんなに変わる。

ふと思ふ良夫賢父の語はなきやパパばかりゐるアカチャンホンポ

「疲れてるフリしないで」と怒られて買ひ物にお供する六時間

男子トイレに幼児チェアなく娘抱き戸惑ひをりぬ不惑の父は

どうしても父のうんこを覗きたい一歳半の娘の馬鹿力

食卓の満悦顔なる子の手にはアンパンマンパン・アンパンマンマグ

「起いしつ」とyoshihoに沈み手を伸ばす美しい妻が土偶に見えた

玉ねぎをみぢん切りする妻の手を怒られるまでずっと見てゐる

パパといふ肩書は荷が勝たないか問ひかけてくる鏡の私

影法師、お前も成長したんだな。肩車した子の背丈ぶん

好きなのだパパよりママよりバーバより仕事着のままのジジに飛びつく

怪獣のやうな娘が駆けながら落とす米粒拾ひつつ追ふ

「もうしない?」「うん」と頷く一歳児 世界で一番軽いうんだな

期待値がデカいと思ふ義母さんがよそつてくれた山盛りごはん

言つてみる「僕が代わってやりたいよ」悪阻の妻に言つてみるだけ

「パパなんて嫌い」だなんて言ふのかな十二年後の君に尋ねる